

日本の お祝い 七五三

11月頃日本では、「七五三」のお祝いで晴れ着姿の子どもと神社にお参りに行く家族を見かけることがあります。七五三は昔からある日本の伝統的なイベントです。一般的に七五三の参拝は11月15日にするとされていますが、11月中に参拝する家族が多くなっています。

七五三は地域によって独自に発展した側面もあり、少しずつ文化が違う場合もあります。起源となった儀式は以下の3つです。

- 3歳の女の子「髪置きの儀」と言います。今からおよそ1000年前には、生後数日に頭髪を剃り、3歳までは丸坊主で育てるという風習がありました。頭を清潔にすることで病気の予防になり、のちに健康な髪が生えてくると信じられていたため、3歳の春を迎える頃に「髪置きの儀」が行われていたと言われています。昨今、頭髪を剃る風習はなくなっていますが3歳の子どもの健やかな成長や長生きを願うお祝いをします。
- 5歳の男の子「袴着の儀」と言います。今からおよそ1000年前には5~7歳の頃に、当時の正装である袴を初めて身につける「袴着の儀」を執り行っていました。別名「着袴（ちゃっこ）」ともいわれるこの儀式を経て、男の子は幼児から少年の仲間入りをしました。当初は男女ともに行っていた儀式でしたが、およそ300年前に男の子のみの儀式に変わりました。
- 7歳の女の子「帯解きの儀」と言います。着物を着る際に使っていた付け紐を取り、帯を初めて締める成長の儀式が執り行われていました。「帯解きの儀」は別名「紐落とし」「四つ身祝い」などと呼ばれますが、江戸時代に「帯解きの儀」を行う形に変わり、この帯解きを経て大人の女性へ歩み始めるとされていました。

七五三の服装は年齢ごとに種類が違う着物を着用します。

- 3歳の女の子は「三つ身」といって、帯は柔らかな兵児帯（へこおび）、さらに被布（ひふ）という袖のない上着を着るのが一般的です。小さな子どもでも負担が少ない、着崩れにくい服装となっています。
- 5歳の男の子にお参りで「袴」と「羽織袴」を一緒に使用します。
- 7歳の女の子は「四つ身」といって、子どもサイズの大人用の着物を着ますが、必要な小物や着付けの方法などは大人と同じです。慣れない草履では歩くのが大変で、着物でのトイレも心配なため、お参り当日は洋装で出かけることも多いようです。

七五三の千歳飴

七五三のお祝いに欠かせないお菓子といえば千歳飴です。子どもの成長に感謝して長寿を願う七五三では、神社やお寺にお詣りし、千歳飴を食べてお祝いをします。千歳飴の紙袋には鮮やかなイラストが描かれています。華やかな絵柄にも意味が込められています。「鶴は千年、亀は万年」という言葉があるように、千歳飴の袋に「鶴・亀」といった縁起物登場します。

参拝する神社

七五三の儀式では、子どもの成長に感謝するため神社に参拝します。一般的にはその土地を守ってくださる神様（氏神様）がいる近所の神社へお参りに行くのがしきたりです。しかし、最近は様々な神社に行く家族も増えてきています。

七五三はいつお祝いするものでしょうか？

昔、七五三の年齢は「満年齢」ではなく「数え年」で行うのが正式とされていました。「数え年」とは、生まれた年を1歳とし、新年（1月1日）を迎えると1つ歳を取るという年齢の数え方です。「満年齢」とは第二次世界大戦以降から現在に至るまで、誕生日で加齢するのが一般的です。現在では、七五三を含む主な年祝いでは数え年、満年齢のいずれで行ってもよいとされています。



昔の七五三はお子様の3歳、5歳、7歳の節目に成長を神様に感謝するという儀式でしたが、昨今は子どもたちの健やかな成長をお祝いするおめでたい行事として根強く残っています。



七五三の儀式の準備は？

祈祷や着付け、写真撮影など、七五三の儀式の前には予約や準備をしなければならないことが多くあります。11月15日前後で行う場合には、遅くとも9月頃から準備をするのが一般的です。神社での祈祷は予約が必要なことが多いです。予約の際には祈祷の内容や所要時間、初穂料、駐車場の有無なども確認します。のし袋やお賽銭用の小銭も当日までに準備しておくスムーズです。

出張カメラマンによる撮影、スタジオなどでの写真撮影を希望する場合は、撮影の予約も必要です。11月15日前後は参拝と記念撮影の人が混みあうため、早めに予約や準備をしたほうが良いです。お子さまの成長やご家庭の予定に合わせ七五三の時期をずらすことも可能です。

生活費が上がって困っている

外国人の皆さん

両手いっぱい

食料品や日用品を

持ち帰ってください！

無料で！

日時 2022年11月23日（水・祝） 11:00~13:00

場所 神戸有野台キリスト教会（神戸アドベンチスト病院内）
神戸市北区有野台8丁目4番1号 無料駐車場あり

人数 先着40名

配るもの 米、食料品、日用品など

持ちもの 持ち帰り用の袋（大きいエコバッグ）

費用 無料 ※予約不要

会場周辺マップ



協力：有野台地区民生委員児童委員協議会・神戸市北区社会福祉協議会

【問い合わせ先】

NPO法人 場とつながりの研究センター
担当：ほんだ、エン、ひらた

TEL: 080-5331-8987 (ほんだ：日本語)

※ベトナム語・英語でのお問い合わせは、メールかMessengerをお願いします。
メール：kokusai@batotsunagari.net

Email



Facebook Messenger

